

2019年3月15日

つくば市民白書関係者各位

元つくば市民白書 2012 実行委員

山本千秋（元編集委員長）

原田 泰（元事務局長）

野崎浩司（元編集委員）

_____様

つくば市民白書 2020 の発行について

陽春の候、皆さまにおかれましては、その後もさまざまな運動でご活躍のことと存じます。

「つくば市民白書 2012」が出版されてから、7年が過ぎました。市民白書は2000年と2008年にも出されており、おおむね4年に一度、オリンピックが開催される年、つくば市長・市議選が行われる年に発行されております。

この間、大きな市民運動として、2015年に総合運動公園に関する住民投票がありました。投票した住民の8割を超える反対で運動公園建設は白紙撤回され、市民白書から4年後の2016年に、「つくば市総合運動公園に関する住民投票運動記録集」が発行されました。さらに2年後の2018年には、「つくば市の財政白書」が市民運動の成果品として出版されています。

住民投票運動は、結果として、つくば市長が交代するきっかけとなり、2016年の選挙では「市民第一」を掲げる現市長が誕生しました。それから3年余り、市民運動に関わる人たちも全力で推した現市長が、市民の願いに沿う行政を進めているか、検証・評価する時期を迎えています。

その観点から、「市民第一」を掲げるつくば市政の評価をテーマとした「つくば市民白書 2020」を発行することは、一定の意義があるものと考えます。しかし、「市民白書 2012」の発行で中心的な役割を果たされた、実行委員長の河村さん、編集委員の矢澤さん、緒方さんが鬼籍に入られ、残されたものも高齢化が進んでおり、市民白書発行は易しい事業とはなりません。

つきましては、「つくば市民白書 2020」の発行に関して相談する会を、下記の日程で開催いたします。ぜひお集まりいただき、知恵だしにお力添えを賜りますようお願いいたします。

記

○日時： 平成31年3月30日(土) 10:00から

○場所： 市民活動センター（吾妻1-10-1 電話028-855-1171）

○議題： ・白書発行の意義と可能性の相談

・市政の点検・評価の視点と白書の輪郭の検討（発行する場合）

（この文書は、前回白書の主な実行委員や執筆者を中心に、お届けしております）

以上